

華岡青洲の妻

作 有吉佐和子

演出 鵜山 仁

文学座に
受け継がれる
有吉佐和子
永遠の名作

文学座公演

小野洋子
石川 武
つかもと景子
金沢映実
大原康裕
吉野正弘
太田しづか
吉野実紗
采澤靖起
奥田一平
川合耀祐
小谷俊輔
平体まひろ

作・有吉佐和子

演出・鵜山仁

華岡青洲の妻

時は天明。紀州に代々続く
医家である華岡家では、母
の於繼と二人の娘、後継ぎ
である雲平（のちの青洲）の嫁加
恵が仲睦まじく機織りに精
を出している。姑である於繼
は、大庄屋の娘の加恵にとつ
て幼い頃からの憧れの人で
あり、その於繼に望まれて
華岡家に嫁いだ加恵は、夫は
遊学中のため不在であった
が、あたたかな女所帯で幸せ
な日々を過ごしていた。
3年の月日がたち、雲平が
華岡家に戻ると、女たちの
関係性は一変する。雲平が目
指す麻酔薬の完成のため人
体実験に競って身を挺す姑
と嫁。美談として語られる
女の闘いを雲平の妹小陸は
じつと観察していた。



金沢映実



つかもと 景子



石川 武



小野 洋子



吉野実紗



畑田麻衣子



吉野正弘



大原康裕



川合耀祐



奥田一平



采澤靖起



平体まひろ



小谷俊輔

文学座公演

スタッフ

美術
乗峯雅寛

照明
古宮俊昭

音響
秦 大介

衣裳
岸井克己

舞台監督
加瀬幸恵

演出補
大内一生

制作
梶原 優

方言指導
三嶋昭代

宣伝美術
三水俊一（文京園楽室）

写真撮影
宮川舞子

九演連の皆様へ

『華岡青洲の妻』の文学座での初演は1970年。東京公演に引き続き北陸を経て佐賀、福岡の演劇鑑賞会例会としてお迎えいただき、長崎公演の例会で千穂楽を迎えています。劇団と演劇鑑賞会とは、長い長い時間をかけて異床同夢、つまりそれぞれの活動をしながら同じ夢を見てきたのです。時が流れ、嫁姑の確執のありようも姿を変えてきましたが、マウントの取り合いや、男女平等のはずが仕事の結果だけは男が持つていってしまうような現状に響きあっています。劇団の財産と言える作品を継承し新たな息吹をもたらすには、伴走してくださる演劇鑑賞会の存在が不可欠なのです。同じ夢を追って一緒に走りましょう。

～ 暮らしの中に演劇を ～

宮崎市民劇場

第199回例会

2025年11月29日(土) 開演17:00 (開場16:30)

会員制 入会金・月会費 (大人2500円・学生1500円)

会場: 宮崎県立芸術劇場 演劇ホール (メデキット県民文化センター)

問い合わせ ☎880-0805 宮崎市橘通東 3-3-8 カブトビル3F 0985-62-0075